

## 第10回

## 恋バナの咲く介護施設!?



さかもと・せつお ● 1975年早稲田大学商学部卒。株博報堂入社。プロモーション企画実務、研究開発に従事の後、企業のソーシャルマーケティング開発を推進。2000年にエルダービジネス推進室、11年に新しい大人文化研究所を設立。さらに、19年に独立し当研究所を創設。現在、所長。著書「50歳を超えたらもう5年をとらない46の法則」(講談社+α新書)、「シニアマーケティングはなぜうまくいかないのか」(新しい大人消費が日本を動かす)。(日経新聞出版社、韓国版、台湾版)他

今後利用者として「団塊の世代」が激増していくなか、新たな高齢者像を知り、介護ニーズを理解するため、団塊の世代の実情や志向、団塊の世代がもたらす介護現場への影響について解説します。

見合い結婚から  
恋愛結婚へ

団塊世代が若者のときに、さまざまなことが大きく変わりましたが、そのなかでも決定的に変わったのが結婚形態です。要するに「見合い結婚」から「恋愛結婚」への転換であり、その割合が団塊世代で見事に逆転しました(図表)。

これは特に女性の意識や行動が変化したことを意味します。見合い結婚が主流だった頃は、「結婚したら好きになるわよ」と言われて結婚した女性は少なからずいました。そこから彼女たちの多くは

夫に先立たれるまで家事をする主婦であり、夫唱婦随が社会通念でした。

ところが恋愛結婚では、どんなにおとなしい女性でもフォローワイドの女性でも、「主体的に相手を選んだ」わけです。その「女性の主体性」が団塊世代を特徴づけています。子育て卒業後はすでに家事も半分卒業気分であり、旦那には「自分でやってください」という意識もあるわけです。したがって、団塊女性は従来型の「良きおばあちゃん」と比較し、どちらかといえば自立型であり、自己主張型といえます。現時点でも強く自己主張する利用者に悩ま

されることもあると思いますし、それを大変だと感じているかもしれません。しかし、団塊女性の自立性は理解し納得すれば無理なことはあまり言わないという面も持っています。本稿で何度か述べてきた「利用者への説明力」が、女性の利用者の変化にも対応しそうです。

若い職員の  
恋バナにも乗りやすい

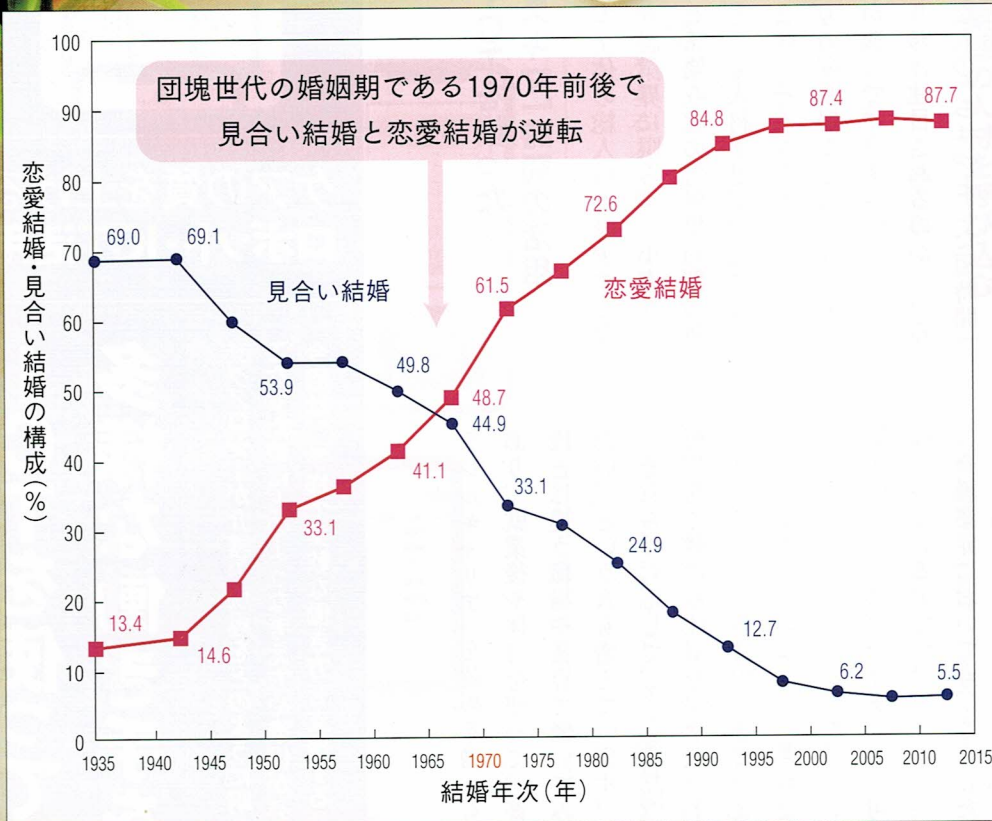
また、恋愛結婚の前には当然デートをしています。そもそも「デート」という言葉が一般的になったのも団塊世代からです。当

時山本リンダが歌ったので一気に広まったわけで、それまでは「あいびき」とか「ランデブー」などと呼んでいました。団塊男性は当時創刊されたばかりの映画情報誌『ぴあ』に赤丸をつけて彼女の家に電話をし、汗をかきながらデートに誘いました。

さらに、その数年後には同棲が流行りました。特に地方から都会へ就職や大学入学で出て来た若者の間で、片方のアパートに通っているうちに同棲に至ったということが多く、『同棲時代』という漫画も一世を風靡しました。

そういう背景がありしかも時間の余裕があるので、連載第3回で

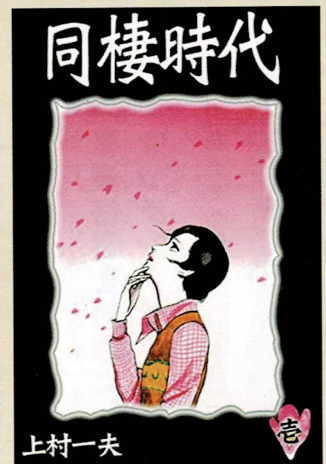
図表 結婚年次別にみた、恋愛結婚・見合い結婚構成の推移



出典：国立社会保障・人口問題研究所「第15回出生動向基本調査」



「デート」という言葉を広げた山本リンダ  
「こまっちゃうナ」  
写真協力：徳間ジャパンコミュニケーションズ



一世を風靡した上村一夫の漫画  
『同棲時代』©上村一夫

も少し触れたように、若い職員恋愛バナにも乗りやすくはなるでしょう。男性利用者は男性の若い職員に「キミ、あの子どうだい」とか「あの娘、キミに気があるんじゃないか」などと余計なことをしつつこく言ってくる可能性があまりありません。女性利用者は女性の若い職員に「アタシが相談に乗ってあげる」とか「アナタ、オトコには安売りしちゃうダメ」などと言います。

また、恋愛に限らず、団塊世代はこれまでも触れてきたように、新しいものの好きであり、特に男性はカッコいいことが最高の価値基準だと考えているような面があります。「あいみよん、いいね」とか「ヒゲダンのあの曲どう？」と話し、若い女性職員から「そんなこと知っているなんてすごいですね」と言われて舞い上がり、それを周りの男性利用者に吹聴しそうです。

若い職員にとっても、従来のかなり自分とは距離のあった高齢者とは異なり、年齢差はあってもより近い友人的な感覚を持ち得ると言えます。うまく作用すれば、意外なところで若い職員の定着に貢

献するかもしれません。

### 介護施設でのクロスジェネレーション

「クロスジェネレーション」とは世代間の交流・協力です。以前、団塊世代を含む40-60代に実施したある調査で、「大人世代と若者世代がお互いの良さを認め合いながら、交流・協力し、新しい文化や潮流を創る時代」に共感する割合は75%もありました。

団塊世代のよしとするものは、「カッコよさ」「新しさ」「若さ」と言えます。過剰になるとかえって嫌味ですが、若い職員が「チョット、カッコいいですね」「新しいもの知ってるんですね」「チョット若い感じありますね」というようにチョット感でほめると、途端にいい気分になって、その若い職員に好意的になりサポートしてあげようという気持ちにもなります。

施設側がうまく持っていけば、利用者が若い職員をサポートする気持ちを持ち、双方にとって楽しい施設にしていくことも可能なのです。